

氏名	林 詠子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4836 号
学位授与の日付	平成 25 年 9 月 30 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Distinct morphologic, phenotypic, and clinical-course characteristics of indolent peripheral T-cell lymphoma (低悪性度末梢性T細胞リンパ腫の形態的・分子生物学的臨床学的特徴)
論文審査委員	教授 松川 昭博 教授 森島 恒雄 准教授 金廣 有彦

#### 学位論文内容の要旨

末梢性 T 細胞リンパ腫、非特異群 (PTCL-NOS) は現行の WHO 分類では形態的、生物学的に多様なものが含まれる、予後の悪い疾患群である。今回、我々は当科コンサルト症例の PTCL-NOS 277 例を review し、腫瘍細胞が mature な形態に近く、Ki-67 labeling index が非常に低率となる 10 例を抽出し、臨床病理学的解析を行った。

10 例の平均年齢は 61.5 歳、男女比は 1:1 で、節外性が 6 例 (脾臓 3 例、甲状腺 3 例) と節性に比して多かった。通常の PTCL-NOS と比較して初発時の血中 LDH 値と International prognostic index が有意に低かった。5 例が化学療法を受け、3 例が無治療経過観察で、最長の生存期間は 62 ヶ月であった。免疫組織化学では CD4 陽性と CD8 陽性はそれぞれ 5 例で、これら 2 群で臨床病理学的に有意な差は見られなかった。また、半数の症例で CD20 の aberrant expression が確認された。さらに、central memory T-cell のマーカーである CCR7 と CD62L が 7 例で陽性であった。これらは本疾患群での特徴的な所見の可能性が考えられた。

以上より我々が今回見出した症例群は予後が良く、通常の PTCL-NOS とは臨床病理学的に独立した疾患単位の可能性があると考える。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、末梢性 T 細胞リンパ腫、非特異的群 (PTCL-NOS) の 277 症例を用いて HE 染色上、小型で異型の弱い lymphoid cell が一様に増殖し、Ki-67 Labeling index が 5% 以下の 10 症例を抽出し、その分子生物学的、臨床学的特徴を解析したものである。研究者は、抽出した 10 症例では他の PTCL-NOS と比較して初発時の血中 LDH 値と international prognostic index は有意に低いことを見いだし、平均 19.5 カ月で 10 例中 9 例が生存し (1 例は原病以外で死亡) 8 症例は無病生存であることを示した。抗体パネルによる詳細な検討の結果、半数の症例で CD20 の aberrant expression が確認され、7 例で central memory T cell marker である CCR7 と CD62L が陽性である特徴的な所見を見いだした。10 例のうち 4 例が CD4 陽性、6 例が CD8 陽性であり、独立した疾患単位と同定するには症例数も不足しているが、通常の PTCL-NOS とは臨床病理学的に異なる疾患群の可能性を提示した点は価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。